

小学生が選挙を考えました！

2月13日(金曜日)、杉並区立永福小学校では、「永福区長選挙」が執行されました。この取り組みは、選挙への関心を高めることを目的にしている、同校の6年生100名が模擬選挙を体験。そして、区の選挙管理委員会の職員から、説明を受け選挙の大切さを考えました。

杉並区内の選挙は、直近の衆議院選挙小選挙区(平成26年12月)では、54.61%でしたが、前回(24年12月)63.93%からは、9ポイント以上の下落。また、区長選挙(平成26年6月)は、28.79%と深刻な投票率となっています。特に、下表のとおり、20代30代の投票率が低いことが判ります。

■年代別投票率

年齢層	衆議院議員選挙 小選挙区 (26年12月)	杉並区長選挙 (26年6月)
20代	34.91%	13.15%
30代	46.43%	21.28%
40代	55.26%	28.69%
50代	63.25%	33.41%
60代	70.32%	40.24%
70～	62.61%	38.65%
計	54.61%	28.79%

政治への無関心は、行政や地域問題への無関心につながるもので、区は成人式など様々な機会を捉えて、選挙啓発を行ってきました。しかし、若年世代を中心とした選挙離れが進んでいるのが現状です。

そこで、小学生から選挙や区政などに目を向けてもらおうと、一昨年から模擬選挙を実施しています。永福小学校の模擬選挙は、昨年に続き3度目の実施となり、6年生100名が5・6時限目を使って、投票と開票を体験しました。候補者は、選挙管理委員会の職員3人が候補者となり、永福区長としての公約を発表。その公約は、選挙公報として、事前に子どもたちに配られました。

体育館を半分に仕切り、片方には投票箱や記載台を置いて、投票スペースに。もう片方は計数機を持ちこんだ開票スペースになっています。午後13時30分、いよいよ模擬選挙が始まりました。小学生たちは、20歳を待たずに訪れた初めての選挙に、緊張の面持ちでしたが、場内では候補者の氏名を言わない。静かに私語を慎むなどのルールを守って、投票を行いました。

投票をするのも、投票所を運営するのも、子どもたちです。そして、開票作業も子どもたちの手で行われました。開票の結果は、災害につよいまちづくりや緑のカーテンの普及などを通して、安心して楽しく暮らせるまちの実現を訴えた「成田こうへい」さんが当選。その後、選挙管理委員会の職員の説明で、選挙の役割や大切さについて説明を受けると、模擬選挙を行ってばかりで、みんな大きく頷いていました。

